

Monthly Doctor's Column

骨粗鬆症とは骨密度が低下し、骨がスカラスカになってしまふ病気のことです。尻もちや重いものを持つなど些細なことで骨折しやすくなり、脊椎圧迫骨折（背骨の骨折）や大腿骨近位部骨折（足の付け根の骨折）が代表的な疾患です。骨粗鬆症は高齢者の病気と思われがちですが、女性の場合50歳代からそのリスクが上がり、50歳以上の女性では約4人に1人が骨粗鬆症ともいわれています。ではなぜ女性に起こりやすいのか存じでしようか？それはエストロゲンという女性ホルモンが骨代謝と深く関係しているからです。



女性は骨粗鬆症になりやすい？！

私たちの中では、毎日古い骨が壊されて（骨吸収）、新しい骨が作られています（骨形成）。これを骨代謝といい、骨粗鬆症ともいわれています。女性の骨量は成長期に増加して30歳頃にピークとなり、その後は低下します。エストロゲンには骨吸収を抑える作用があるため、閉経によってエストロゲンの分泌が急激に減ると、骨吸収の働きが強くなり骨がもろくなってしまうのです。またエストロゲンは女性に多

い手指の関節痛や腱鞘炎とも深い関係あります。エストロゲンには腱鞘（手の腱のまわりを包んでいる部分）や滑膜（関節の内側をおおう膜）のむくみや腫れを抑制する作用もあるため、エストロゲンの減少が腱鞘炎や関節痛の原因のひとつといわれています。近年、大豆イソフラボンと腸内細菌によって作られるエクオールという物質がエストロゲンと似た作用をもつことが注目されています。しかし日本人女性の2人に1人はエクオールを体内で作ることができないため、サプリメントによる補充をおすすめします。



今月のDr.
整形外科
Shuka Chinen
知念 修子
日本整形外科学会専門医

※日本整形外科学会HPより引用



INFORMATION

01 「健康増進普及月間」について

人口の高齢化や社会生活環境の急激な変化等に伴い、糖尿病、がん、心臓病、脳卒中等に代表される生活習慣病の増加が大きな問題となっています。厚生労働省は、生活習慣病や運動・食事・禁煙などの改善について理解を深め、実践を促すため、9月1日から30日までの一ヶ月を「健康増進普及月間」と定めています。

皆さんもこの期間中に運動や生活習慣を見直し、健康づくりに努めてみてはいかがでしょう。

統一標語
「1に運動 2に食事 しっかり禁煙 最後に
クスリ」～健康寿命の延伸～

02 「第一回 おもと会 リハビリテーション
美術展（造形作品展）2023」開催

沖縄リハビリテーション福祉学院作業療法学科は、今年度の新規事業として計画しておりました「移動展示会」を8月8日～8月19日の期間、大浜第一病院で開催することができました。これまで学生の講義で制作された作品は、年1回学園祭で展示されていましたがコロナ禍ではそれさえも叶わず作品は活かされることはありませんでした。今回初めて病院で働く皆様のご理解とご協力で学院以外の場所で作品が展示され、多くの皆様にご覧いただきました。病院で働く皆様からは準備の段階から美術展開催中を通してあたたかいメッセージをいただきました。おもと会グループのつながりを今回の美術展でこれまで以上に感じています。

最後に美術展に足を運んでくださった皆様に心から感謝申し上げます。学生たちの将来への意気込みや才能を応援し、私たちの取り組みに关心を寄せいただきありがとうございました。作業療法学科ではインスタグラムも配信しておりますので、フォローよろしくお願いします。

沖縄リハビリテーション福祉学院
作業療法学科 副学科長 下地 みさ子



Dr.仕垣セレクト
医学・医療
の名言



続けることが、救うこと

— 工藤賀陽内科クリニック 特別顧問 工藤道英 —



今月の
smile
スマイル
医療コンシェルジュ・上地の
外来より
こんにちは

3月の新入職員
早く仕事に慣れ、役に立てるよう頑張ります。

マスクして
笑顔伝える
難しさ

30代事務員

医療
川柳

編集後記

Text: 総務課 宮良

皆さん。こんにちは。
日月初旬、2度に渡り襲来した台風6号の被害はありませんでしたか？
当院では約2日に渡って通信回線が遮断され、皆様へは多く迷惑をお掛け致しました。沖縄に接近する台風が増えるのは8月～9月頃の約2ヶ月間と言われています。『備えあれば憂いなし』常日頃の準備が非常に大切だと思う台風でした。





8月5日 第2回全国医学生臨床
推論甲子園が開催されました！
当院からは1年目研修医の江成萌
先生が参加しました。数名でチーム
を組んでの臨床推論バトル！当日は
宿直明けの参加となりやや緊張した
面持ちでしたが、いざ始まるとアド
リブも聞いた堂々とした発表となり
ました！また、他の研修医の発表を
聞いて勉強になることも多かったと
思います。

参加をきっかけに、今後の医師と
しての業務に活かせればと思いまし
た♪

一人前の医師を目指して研修医1
年目の皆、ちばりよ～☆三

ちびりよー！



病気解明への家族と医師・研究者たちの半世紀

「バラク・オバマ元アメリカ大統領の年間ベストブック」という触れ込みに興味を持ち、手に取った本書。1940年80年代の米コロラド州に住む特異なギャルヴィン一家を中心に、この物語は進んでいく。何が特異なのか?それは、ペビー・ブーム時代とも重なり子供が十二人もいること。更には、その十二人の子供のうち、実に六人が統合失調症を発症したことである。この高確率に注目した当時の医師や研究者は、この病気における最大の謎である「それは遺伝によつて起きるのか?環境によるもののか?」(これは、本書のサブタイトルでもある)。解き明かそうとする現代においても約100人がかかるといふ現代合失調症は、ナツシで珍し

い病気ではない。しかし未だに発症の原因は解き明かされておらず、根本的な治療法も確立していない。第二次世界大戦後の二十世紀半ばから現代まで、このギャルヴィン一家の半世紀を、詳細な記録を元に時系列に展開されていくノンフィクション。そして、この家族が抱える「強烈な闇と秘密」は、発症と関連はあるのか？その一方で、医学の研究者たちがどのような苦難を乗り越えてきたのか？「事実は小説より奇なり」とよく言われるが、本書はまさにそのとおり。自分たち家族の経験が必ずや精神医療の発展に貢献し、同じ苦しみをもつ人々の生活を改善できるはずだ。といふある物語だ。

医療作品紹介

統合失調症の一族
遺伝か、環境か

Reviews

